

謹啓

蓮如上人井波御下向五五〇周年記念御影道中
におきましては、貴院、門信徒あげて御影道中
をお迎えくださいましたこと、加えて多大なる
ご懇志を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

蓮如上人井波御下向より五五〇周年という時
を得て執行させていただきました蓮如上人御影
道中が、まさに蓮如上人の御遺徳を再現する
真宗再興の御仏事となりましたことは慶喜の
至りであります。ひとえに北陸の地における
貴院、門信徒の法義相続の尊い歩みがこの御影
道中を成り立たしめたものであります。そして
同時に蓮如上人が歩まれることで、いのちの底
に流れているご本願より湧き出るようにして
仏恩報謝の念仏が現行し、救いの道がここに
あることに、多くの人がまみえられたものと
拝察いたします。

「ここに祖師聖人の化導によりて、法蔵因位
の本誓を聴く、歓喜胸に満ち渴仰肝に銘ず。

しかればすなわち、報しても報すべきは大悲の
仏恩、謝しても謝すべきは師長の遺徳なり。」
(報恩講私記)

蓮如上人御影道中もその本源は報恩講で
あります。蓮如上人から託された真宗再興の
歩みを共に遂げてまいりたく、今後ともご指導
ご鞭撻の程 何卒宜しくお願い申し上げます。
この度はご法縁を賜り誠に有難うございまし
た。

謹白

二〇二五年十月十二日 井波御下向道中講

お立ち寄り会所・御寺院・御門徒各位

井波御下向俳句

富山県 長谷川範明

蓮如上人の お輿車に 秋桜

野分のごと 蓮如道中 来ては去り

呼び声の 空高くまで 道中講

石川県 福鳥一玄

医王雲 我もまさかの 蓮如道

石川県 神田かすみ



『蓮如上人井波御下向 550周年記念』

御影道中』に、「ご支援」ご厚情をいただきました皆様には、本当に感謝申し上げます。

初めに「御下向」でお名前がわかつている方ですが、ご紹介をさせていただきます。

井波別院活性化プロジェクト

蓮如上人井波御下向550周年記念事業

実行委員長 教区会議長 竹部俊恵

蓮如上人井波御下向550周年記念御影道中

実行委員長 井波別院輪番 常本哲生

御影道中瑞泉寺実行委員会 島田勝由

井波別院二十八日講 土田信久

井波別院同行の会 楠 則夫

井波別院杉谷女性会 山田由理枝

井波彫刻協同組合 花嶋弘一

越中ブロック執行部

太田浩史(講師) 高坂道人 常本哲生

金沢ブロック執行部

福島一玄(代表) 豊富高宏 西河寿夫

南加賀ブロック執行部

佐々木浩然(代表) 出雲路雅 清水教示

支援委員 出雲路香 多田明弘

「御下向」

随行教導

太田浩史(富山県) 豊富高宏(石川県)

宰領 藤原猶真(愛知県)

供奉人 清水教示(石川県) 岡本漸(福井県)

小林治樹(兵庫県) 小川龍太(埼玉県)

本部車両 櫻井秀雄(愛知県)

撮影班 篠島幹夫(富山県) 林賢二(富山県)

勇崎晃(富山県) 稲場弘志(富山県)

高田健(富山県)

オープンチャット 丘 宗宏(福井県)

吉崎別院へ御輿車搬送 日下部融(福井県)

事務局 吉江晃(富山県)

9月27日(土)第1日

会所等 御山御坊跡 吉崎別院 御出立式

荻生町 存如上人留錫碑 鍛冶町 本善寺

鍛冶町 願成寺 山田 光闡坊

八日市 白水の井戸 鹿野酒造

片山津 成善寺 月津 興宗寺 本折 淨誓寺

小松大聖寺教務所

サポート参加 宝谷隆盛(石川県)

山下明子(石川県) 田端利明(石川県)

宮崎護(石川県)

支援車両 出雲路雅(石川県)

9月28日(日)第2日

会所等 小松大聖寺教務所 細工町 本蓮寺

本折 長圓寺 東町 勝光寺 高堂 常念寺

寺井 稱佛寺 粟生 迎巖寺 徳久 静照寺

三ツ屋 寶海寺 宮竹 正林寺 鶴来別院

サポート参加 香城満(石川県)

支援車両 前松伸(石川県) 出雲路雅(石川県)

御輿車搬送 清水青春(石川県)

9月29日(月)第3日

会所等 鶴来別院 四十万善性寺・蓮如廟

野々市 照臺寺 野町 光專寺

白菊町 瑞泉寺 小立野 仰西寺

若松 專徳寺 二俣 本泉寺

サポ-ト参加 山下佐知子(石川県)

坂田甲一郎(石川県) 阿部泰朗(愛知県)

木村加代子(石川県) 中村恭子(石川県)

川島弘之(茨城県)

御輿車搬送 福駕一玄(石川県)

送迎車両 梨谷真嗣(富山県)

長 真寿(富山県) 長よし之(富山県)

9月30日(火)第4日

会所等 二俣 本泉寺 砂子坂 善徳寺創建之跡

土山御坊跡 法林寺 光徳寺 山本 教念寺

館 妙敬寺 才川七 宗善寺 祖谷 本敬寺

小坂 正等寺 竹内 真敬寺

サポ-ト参加 松本よしみ(富山県)

小嶋久之(石川県) 堂下豊治(福井県)

徳光和彦(富山県) 山崎佑二郎(富山県)

篠島ゆき野(富山県) 青木敦(新潟県)

時長昌教(石川県) 吉江晃(富山県)

御輿車搬送 徳光和彦(富山県)

山崎佑二郎(富山県)

送迎車両 太田奈々代(富山県)

10月1日(水)第5日

会所等 法林寺 光徳寺 荒木 正圓寺

梅原 以速寺 宗守 蓮如清水

田屋川原古戦場 三清了泉寺

井波別院瑞泉寺

サポ-ト参加 中田秀芳(富山県)

中井松子(富山県) 西村愛子(富山県)

岩佐文男(富山県) 御器谷 彦光(富山県)

小西竹又(富山県) 高島勉(富山県)

長谷川範明(富山県) 中島司(富山県)

送迎車両 居林邦雄(富山県)

御器谷 勉(富山県) 中島隆敏(富山県)

吉田重雄(富山県)

井波別院二十八日講 箭原健作(副講長)

小牧幸子 山田和枝

一般参加 秋山知宏(京都府) 釣 章子(富山県)

金尾志津子(富山県)



「御下向」にご参加いただいた方々の感想文です。

(「前の名簿」の順番に感想を入れております。)

念仏申さるべし

蓮如上人井波御下向550周年記念事業

実行委員長 富山教区会議長 竹部俊恵

降って湧いたような話だった。蓮如上人が井波に御下向されて、今年で550年になると、何処からともなく聞こえてきたのだ。慌てふためいて「瑞泉寺史」や岩倉政治の

「風のまにまに」に目を通してみた。確かにそのとおりであった。言われるまで気付かなかった我が身を恥じた。

その後、太田浩史氏が「蓮如上人井波御下向550周年記念御影道中(原案)」なるものを持って来られた。驚いた。何がと言っ、いつになく(失礼)俊敏で、火傷しそうな高い志だったからだ。何回かの打合せを経て、

あつと言う間に9月25日珠洲西勝寺での御動座式、9月27日吉崎別院での出立式に同席していた。550年間、紡ぎ続けてきた「聖人一流の御勸化」をこの身に受け止めた方々によって、御影が次から次へと井波に向かう道中が形作られた。

「念仏申さるべし」の蓮如上人の声は御輿車にお乗せし、ついに井波御坊に550年ぶりにご到着された。この身に受けた方々の念仏が、堂内に響いた。降って湧いた話ではなかった。

蓮如上人井波御下向

550周年記念御影道中御下向を終えて

講師・随行教導 富山県 太田浩史

蓮如上人井波御下向550周年記念御影道中の往路、吉崎別院から井波別院まで二、三六kmを踏破する「御下向」が終わった。十月三日より始まる「御帰山」をひかえて中間報告を行いたい。

もともとこの企画は、二〇二三年第三五〇回蓮如上人御影道中がコロナ禍の影響で参加者御立寄会所数ともに減少し、将来の継続が危ぶまれたことから始まった。

教如上人が吉崎村へ蓮如上人御影を下付して御忌が始まったが、吉崎山の御坊跡での開催を求めたことが越前藩や本願寺派門徒の不興を買い、騒擾をおそれた本山は御影を京都で管理することにした。すると吉崎村の門徒は毎年御忌の際に御影の下向を求めたので、これを承認した本山は御影に使僧をつけて下すことにした。すると吉崎側でも迎えの人数を出して、往復の道中を供奉することにした。これが恒例化したのが現代まで続いている蓮如上人御影道中であるが、それだけでは仏事としての動機は弱い。

そこで蓮如上人の吉崎布教における真宗再興を感謝する行事という意味付けがなされるようになった。だが吉崎布教を感謝する行事ならば、吉崎布教の恩恵をうけた門徒で行う

べきである。すると福井県と滋賀県を通すだけの行事では済まないのではないか。蓮如上人が歩まれた道は加賀各地から越中井波まで及んでおり、石川県、富山県まで御影道中が通ってこそ真宗再興を感謝する行事というにふさわしいのではないか。さらには能登や

富山県東部にも蓮如上人に由来する寺が存在し、越後・信州・関東・東海道・畿内と上人の足跡は親鸞聖人と重なる。毎年とはいわないが、これらの地域にも行程をのばせば、そのネットワークが御影道中を支えることになる。それは教養的な理解に滞って運動としての性格が希薄になり、寺離れや過疎にさいなまれる今日の教化体制にも好影響をもたらすのではないか。このような発想を抱いた六名の発起人によって「井波道中講」が結成され、石川・富山両県の遺跡寺院を中心に、お立寄会所を願ったところ、実に七十ヶ寺が応じ、さらには御旧跡地域の住民、酒造会社、小松大谷高校などの加盟もあって、近年における北陸最大級の仏事

となったのである。

供奉された御影は珠洲市西勝寺に伝わる「鏡の寿像」で、珠洲市指定文化財となつてゐる。昨年一月一日の能登半島地震で西勝寺は本堂全壊、庫裏半壊の大被害をうけたが、半壊した庫裏の床の間にあつた御影は奇跡的に難を免れた。真宗民俗研究の泰斗であつた故西山郷史前住職が前年の奥能登地震の際、本堂が倒壊して寿像が失われることを心配し、庫裏に移動していたことが幸いしたのである。一月一日は門徒さんらが初詣に集つた。「寿像が本堂にあれば自分もそこで、お勤めをし、門徒さんや家族とともに下敷きになつていたかもしれない」と西山郷光住職はふりかえる。その日庫裏にお参りしていた門徒さんが帰つたのが午後四時頃、地震がおきたのは午後四時一〇分だった。

道中の行事はまず「鏡の寿像」の動座式から始まつた。九月二十六日午後二時、西勝寺に関係者が集まつた。本堂の残骸はすでに撤去

され、広い空き地の片隅に庫裏の残存部を利用してささやかな仮本堂がつくられていた。

運行主体となる井波道中講 豊富高広、國分大慶 両随行教導による入櫃の儀が行われ、井波御下向550周年記念事業実行委員会の竹部俊恵 実行委員長が挨拶した後、太田講師が法話

した。堂内いっぱい御門徒は半数が仮設住宅に暮らしているそうである。朝からどしゃぶりの天候だったが、御櫃が堂内を出る頃には雨がやみ、人々は手を合わせ念仏を称えて、寿像の壮途を見送つた。前坊守の西山益美さんは

「これほど明るい気持ちになれたのは、地震以来はじめてです」と語つた。金色の鳳凰紋をあしらつた赤い毛氈につつまれた寿像が車に載せられると、また沛然たる豪雨となつた。

このときより「鏡の寿像」は井波御下向の「御影」となつた。吉崎より東に蓮如上人御影道中が行われるのは初めてのことで、コース選定をふくめ何もかも手さぐりの状態で進められた無手勝流の道中だった。

九月二十七日午前六時半、御影は吉崎山の御坊跡に運ばれた。朝日が差し、高村光雲作の蓮如上人銅像が輝いた御顔で見下ろされる。午前七時、吉崎別院本堂で大勢の人に送られながら出発した。

存如上人留錫碑、加賀市の本善寺、願成寺。

蓮誓(蓮如四男)ゆかりの光闡坊を過ぎ、蓮如上人が掘り当てた白水の井戸の水で醸した鹿野酒造「蓮如の白水」を「こちそうになり、片山津成善寺、月津興宗寺、本折浄誓寺と蓮如ゆかりの寺々をめぐり、小松大聖寺教務所に宿泊。初日から五万歩の遠行となった。いずれの寺も予想を上回る門徒さんが詰めかけ、加賀門徒の蓮如上人への帰敬の篤さを示した。

九月二十八日、細工町本蓮寺、本折長円寺、東町勝光寺、高堂常念寺、寺井称仏寺とめぐって粟生迎嚴寺で昼食、ここでは地区の門徒や子供たちと一緒に齋をいただいた。

お齋は婦人会が前の晩から仕込んだ絶品、コロナ以後こんなに大勢のお齋は奇観ですら

ある。御輿は徳久静照寺を経て三ツ屋宝海寺の腰掛石に座る。五五〇年ぶりにお帰りなさいと悦ぶ信徒。宮竹正林寺を出て鶴来別院に向かう。夕暮れせまる沿道の人また人。みんな合掌し、花をたむけ喜捨を捧げる。巨大な別院の本堂は満堂となつて蓮如上人を迎えた。『北國新聞』の報道があつたとはいえ、清沢の泉のごとく湧出する信者達々である。

九月二十九日、四十万善性寺、野々市照台寺、野町光専寺とめぐり、白菊瑞泉寺で昼食したのち、雨上がりの金沢城公園に到着。城内を「蓮如上人さまのお通り」と連呼しつつ外国人観光客に写真を撮られながら二の丸前の「金沢御堂跡」に向かう。「跡」の字を取って「蓮如上人さま、金沢御堂さまにお着き」と触れて、本来ここが城ではなく御坊であつたことをアピールした。

熊谷直実の遺跡 仰西寺、加賀の教化者運悟をしのぶ若松専徳寺を経て、山地を自動車移動したのち、二俣村あけての歓迎のもと本泉寺に

ついた。蓮如上人の第八世就任に大きな役割を果たした如乘法印開基のこの寺は、自作の庭が残されるなど、上人の加賀越中教化の拠点となつた。境内の後ろには深厳たる蓮如廟があり、拝殿のなかで一行は重誓偈をあげた。

九月三十日、本泉寺を発つといきなり国境超えの難路である。上り坂の連続が容赦なく道中一行を悩ました。「これほどに険しき山の道すがら、のりのゆかりにあらでやはゆく」と詠んだ蓮如上人がしのばれる。峠を越えるとき能登の山々が見えた。井波へむかう途中、「将来かならずあの地に仏法が開けるであろう」と上人が予言されたのはこの眺望であろうか。蓮真が開いた城端別院善徳寺の前身となる砂子坂御坊の跡地と、蓮如上人が踏躰(たたら)を踏んで黄金仏を鑄造した場所は竹藪をくぐった深山幽谷にあつた。御輿車は再び竹藪をくぐって土山御坊跡にむかう。

親鸞聖人が越後教化中、佐渡に流される順徳天皇と鳥屋野で出会い聖人の草坊に「勝興寺」と賜った。その寺号を蓮如上人が持ち帰り、この御坊に与えて蓮誓に相続させた。御坊跡には蓮如上人作の庭があり、自然石に「越路なる土山の峰に行き暮れて 足も血潮に染むるなり」と上人の歌が彫られていた。御影道中が越後と近江の国境を越える時目にする石碑にある「越路なるあらしの山に行きつかれ 足も血潮に染むるばかりぞ」という親鸞聖人の詠歌を本歌にしたものである。

トンネルをくぐり法林寺村の光徳寺に着く。蓮如上人鑄造の黄金仏が安置され、棟方志功の活動拠点になるなど見所いっぱい寺であるが先を急ぎ、山本教念寺で昼食をいただく。この寺の報恩講料理は漫画「美味しんぼ」に紹介されたもので、一向は舌鼓を打ちっぱなしだった。綽如上人開基の妙敬寺を経て、医王山を開いた泰澄大師ゆかりの宗善寺、白川門徒の本敬寺、蓮如忌を伝える正等寺、宮地義天講師

を出した真敬寺でこの日の予定を終了、いずれも住職の予想をはるかに上回る参詣者で大賑わいだっただ。十月一日、宿所の法林寺村の光徳寺を発つときは雨が降りしきっていた。天気予報は終日土砂降りとの事。しかし荒木正円寺に着く頃には小雨となり、梅原以速寺を過ぎると雨があがった。大雨の予報も信仰の人をさまざまに、寺は予想外の参詣でにぎわった。「木像よりは絵像、硬貨よりは紙幣」との供奉人の呼びかけに笑いながら参詣人は「軽い賽銭」をかごに入れた。宗守村にも「蓮如清水」があつた。

田屋川原古戦場では「百姓の持ちたる国」の発起となった砺波郡一向一揆の犠牲者を双方問わず吊った。了泉寺を発つ時ほんの少し雨が落ちたが、その後は「蓮如晴れ」、終日土砂降りの予報は完全に覆った。一行は綽如上人が『勸進帳』にうたった高瀬神社を過ぎて井波入りした。以下は『富山新聞』の記事を紹介する。

一行は旧井波駅舎を経由し、瑞泉寺門前に広がる町を歩いた。途中、門信徒らが御影を載せた御輿車の引き手に加わり、沿道の住民が手を合わせて念仏を称えた。「寺子こどもえん」を併設する真教寺では、園児らが御輿車にコスモスなど秋の花を飾った。園児が引き手に加わり、参加者が見守るようになんぞ歩いて瑞泉寺に向かった。御輿車の御影は、門前の観光施設「よいとこ井波」で瑞泉寺が用意した御輿に移された。背中に「井波」と入った法被をまとう井波彫刻協同組合役員らが御輿を担いで階段を上り、山門をくぐった。本堂前で常本哲生輪番や県内各地の僧侶らが並んで御影を出迎えた。道中で縁のあつた富山、石川の門信徒をはじめ、北陸三県や東京、愛知などの僧侶も御影に手を合わせた。瑞泉寺では約三〇〇人が本堂を埋めた。法話の講師を務めた太田さんは御影道中について「信心の花を咲かせて歩くから『花咲かじいさん』のようなもの」と例えた。

『富山新聞』は記事のタイトルをこう掲げた。

「これぞ 真宗の再興」!!

全国にお念仏を届けるのが御影道中

金沢ブロック執行部 代表 福嶋一玄

少し飛躍しますが、妙好人 三味線はあちゃん
は全国 三味線行脚で お念仏 届けて廻って
上がった お賽銭を本山に届けたそうです。
(今の貨幣価値で7千万とか)

その歩みはひとり御影道中 と言えるような
感じですよ。

また、全国津々浦々、細々と続いております
御講や聞法の間もそれぞれが御影道中なんだ
なあ、という気づき、もつと言えは、

続いているものを 御影道中 と呼ぶのかも
しれません。

御影道中やってみて、そんなことを感じ
ました。土徳の地を掘り返す仕事なので
夢は膨らみます。

道中を振り返って

随行教導 石川県 宿善寺 豊富高宏

私はいわゆる 蓮如病 から十年前に回復し、
最近 吉崎別院の道中は参加しませんでした。

そうしたところ太田先生より今回の井波道中の
お誘いを受け、その目的を聞いて快諾しました。
しかしながら、後の「教導」の拝命は私自身
初めての事で、少々悩みました。

その御依頼は「汝座より立ちて更に衣服を
整うべし」と叱咤されたような気がしたのです。
無量寿経の中で お釈迦様が弟子阿難に言われ
た言葉です。過去に宰領を務めたことで満足
しているのですか。僧侶だったら教導を目指す
のが本筋ではないですか。

そしてハタと思うところがあり 現状に満足
し座っている身に鞭打ち、受けることにしまし
た。課題は二つ。①体力の回復 ②短くて深い
法話の作成。その時からが苦難の連続。若い頃
に戻ったかの様な図書館通いとウォーキングの
日々。

加えて弱い自分と向き合った日々。目標の

40個の法話作成に行詰まり、「10個いや
5つ位を回して喋れば」と誘う声。「今学んで
いる先生のお寺、門徒さんが多い大寺院での
法話、本当に私で大丈夫か？」と邪念が

聞こえました。しかし今回のチラシに
「歩キナン大道ヲ」という言葉が まさに自分に
言い当てられた様に思え、横道に逸れること
なく土徳の土地を堂々と歩くことを決意しま
した。

実際の道中は色々な出会いに恵まれました。
折々の風景、満堂のお迎え、お斎の御馳走、
数えたらきりがありません。自分自身にも
出逢いました。なによりも井波別院に到着した
時、輪番さんが涙ながらに「このように

賑わった光景見たことない、報恩講に蓮如様が
駆け付けて下さった」と挨拶されたことに感動、
また多くの門徒さんが「尊いものを見させて
もらった」「有難い」などと涙する姿に心打たれ
ました。

単なる掛け軸の御影ではなく、まさに

蓮如上人が五百五十年の時空を超えて教化されているを実感。蓮如上人は真宗を復興された方です。寺離れが叫ばれる中、今回 何う所 何う皆 笑顔や涙する姿、まさしく眠りかけていた信心を揺り動かして頂いたのではないでしょうか。

能登、奥能登の復興について、社会インフラである建物や道路の整備は進んでいます。

しかし人の心の復興、安定はまだまだです。来年この蓮如上人御影道中を奥能登で歩きたいと計画中です。これは賛否両論あります。能登はお参りする場所も限られている現状です。こんな時期に、こんな時期だからこそ、いろいろな意見があります。

「一宗の繁盛と申すは、人の多く集まり、威の大なるには無く候、一人なりとも人の信を取るが一宗の繁盛に候う」

『蓮如上人御一代記聞書』より。)

皆様はどう思いますか？

原体験の追体験

宰領 愛知県 藤原猶真

蓮如上人御影道中に関わってきた私にとって新たな地での御影道中の試みは願っても無いことでありました。

井波御下向御影道中の大いなる構想を太田浩史先生に打ち明けられてから約二年、まだ決行日すらも定まっていない段階から、期待と喜びに満ちた日々を過ごすさせていただきました。

北陸一円へと広がるこの壮大な計画実施に向け、発起人の一人として至らぬことも多々あり、ご迷惑をおかけしてきましたが、一度も本当に実現できるのだろうかという疑いはなく、ただただ、どうすれば実現できるのかに、私の関心は集中してきました。そしてこの道中のあらゆる場面に遭遇したいと、全日程における宰領を志願いたしました。

御下向出立にあたり、どのような道中になるのか想像もできなかったですが、結果として全く想像にたがわない道中が繰り広げられた

のであります。矛盾しているようですが、この不思議な確信というものはこれまで経験し実感してきた蓮如上人御影道中がもつ「力」(※)への全幅の信頼にあります。

そうです。北陸の地に蓮如上人は生きておられました。まさに原体験を追体験する土壌がはぐくまれていたのであります。蓮如上人は多くの方の合掌のまなざしと念仏の声に迎えられるのであります。

全ての計画は最初から整っていたわけではありません。何度も行程は見直されました。会所によってはご無理を曲げてお迎えいただくこともありました。一方で予定通りにお立ち寄りができなかったという心残りもあります。

計画当初より新聞社のお力添えには大変助けられました。日が近づくにつれて井波の御同行の熱気に励まされました。

奇跡的に形になってきたこともいくつかあります。その最たるものは西勝寺蔵蓮如上人

御寿像との因縁でありました。

この道中というものは、親鸞聖人が凡夫の歩みを「願力の白道を二分二分ようようずつあゆみゆけば、無碍光仏のひかりの御ごころにおさめとりたまうがゆえに…」と説かれるように、まさに一歩一歩、歩むことによって、はからいを超えて成り立つてきた感があります。そのような自発的要素が結集して、それはつまり尊いものに触れたいという心が結集して、偶然が必然となり、信は願より生じ、この道中は円成を迎えることができたのであります。仏事とはかくなるものではないかと、その原点を見た思いであります。

各会所のご理解とご協力、ご門徒のご懇念、そして供奉人、参加者の献身的なはたらき、多くの人に支えられ、この御仏事が勤められましたことに心より感謝申し上げます。尊いご仏縁を賜りまして誠に有難うございました。

最後に棟方志功の蓮如上人の柵を拝借し歴史に残るすばらしいチラシを作成し、実行面

においても御尽力くださった出雲路雅さんにご別なる謝意を表します。

(※この「力」を蓮如上人の真宗再興力というべきか)

変わる【前向きな生き方(姿勢)になる】

供奉人 兵庫県 小林治樹

今回の道中は、吉崎から初めて行く石川県富山県。ワクワクした気持ちで参加させていただきました。発起人の方々の緻密な行程。お待ち受け下さったお寺の方々、門徒の方々。素晴らしいおもてなしを受け、驚いています。

「蓮如上人様のお通りー」「お通りー」の掛け声と蓮如上人の御影を御輿車から降ろす時、そしてお入れした後、マイク係の「合掌、お念仏を戴きます。」の声に、「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。」教導先生の法話を聞く御影道中。550年前、蓮如上人が井波下向されたそのまま、今、目の前に現れている。この事

に私はびっくりし、びっくり出来たことに喜びが湧いて来ました。御下向到着の井波別院で、石川県珠洲市の西勝寺様が、お貸し下さった裏に印のある蓮如上人の御寿像(生きて居られる時に描かれた自画像)が掛けられ、拝見した時、掛軸のしわも神々しく、コピーでない本物に触れ、感動致しました。

今回の道中で、私は、変わる事が出来たのも「何か」がこの御影道中にあったからです。又機械があれば御一緒に歩きたいです。今回は歩く事がとても御利益がある事であると解りました。これからは歩くことによって心と体をつくり、毎年、御影道中に臨みます。私は、この道中で正気に戻って来ました。そう、私はこの道中によって、正気に戻って来れた事が最大の収穫です。

